

日立ディスクサンダ

100mm 細 径 **S 10SA2**

100mm 細 径 **S 10SA2(E)** (S 10SA2 の 3P ポッキン
(可倒式さし込み)プラグ付)

125mm 細 径 **S 13SA2**

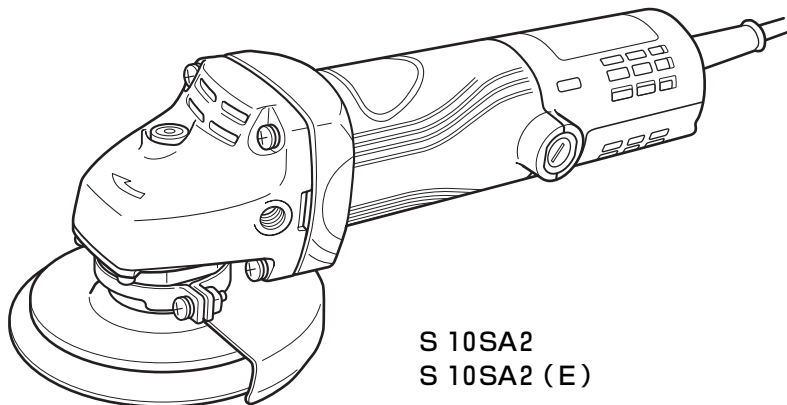
125mm 細 径 **S 13SA2(E)** (S 13SA2 の 3P ポッキン
(可倒式さし込み)プラグ付)

取扱説明書

このたびは日立ディスクサンダをお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。




S 10SA2
S 10SA2 (E)


目 次


	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
ディスクサンダの使用上のご注意	5
各部の名称	7
仕様	8
標準付属品	8
別売部品	9
用途	10
作業前の準備	10
ご使用前に	12
削り方	14
サンディングディスクの取付け・取りはずし	15
別売部品の取付け方	16
保守・点検	17
ご修理のときは	18
全国営業拠点	裏表紙


警告、 **注意**、 **注** の意味について

ご使用上の注意事項は「 **警告**」、「 **注意**」、「 **注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

 **警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「 **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

 **注** : 製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



警 告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。



警 告

- ⑨ 保護メガネを使用してください。
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ 防音保護具を着用してください。
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のつがった所に近づけないでください。
- ⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。
- 使用しない、または修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ 不意な始動は避けてください。
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑱ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。
- 屋外で継ぎ（延長）コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。



警 告

⑱ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものは、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

ディスクサンダの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、ディスクサンダとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。



警 告

- ① **使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② **必ずアース（接地）してください。**
故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。
（詳細は、10ページの「1. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認」の項をご参照ください。）
- ③ **ホイルガードは、必ず取付けて使用してください。**
サンディングディスクが身体に触れる恐れがあり、けがの原因になります。
- ④ **当社指定のラバーパットを使用してください。また、損傷・摩耗したラバーパットは使用しないでください。**
破壊の恐れがあります。
- ⑤ **サンディングディスクにキズ、欠けなどの異常のあるものは使用しないでください。**
- ⑥ **FRP材の加工には使用しないでください。**
破壊の恐れがあります。
- ⑦ **突起物、角部にサンディングディスクの外周部を当てないでください。**
破壊の恐れがあります。
- ⑧ **使用中は、振り回されないよう機体を確実に保持してください。**
とくに始動時は気をつけてください。
サイドハンドルを付属している場合は、サイドハンドルをしっかりと取付けてください。
確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ⑨ **水、研削液などは使用しないでください。**
乾式用のため、サンディングディスクの破壊によるけがや感電の恐れがあります。



警 告

- ⑩ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。

サンディングディスクが破壊したとき、けがの原因になります。

- ⑪ 使用中は、回転部に手や顔などを近づけないでください。

けがの原因になります。

- ⑫ 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。

火災ややけどの原因になります。

- ⑬ トイシは使用しないでください。

ディスクグラインダとしては使用できません。けがの原因になります。

- ⑭ サンディングディスクを使用して、切断作業はしないでください。

サンディングディスクが破損したとき、けがの原因になります。

- ⑮ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。

けがの原因になります。

- ⑯ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音が出たときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

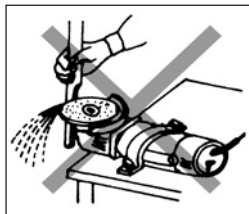
- ⑰ 誤って落としたり、ぶつけたときは、サンディングディスクや機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

- ⑱ 継ぎ(延長)コードを使用するときは、アース線を備えた3心ケーブルを使用してください。

アース線のない2心コードですと、感電の原因になります。

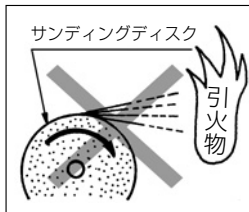
⑩ ⑭



⑪



⑫



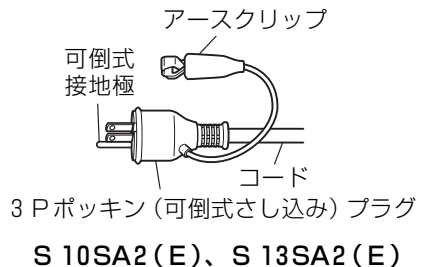
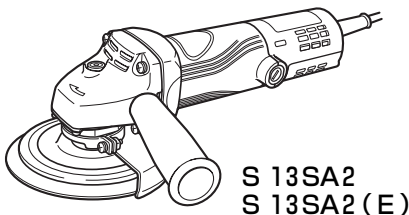
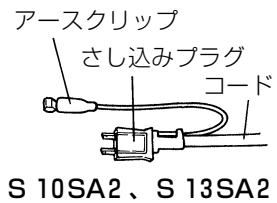
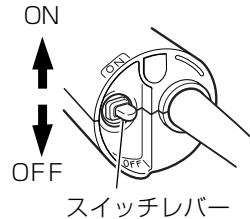
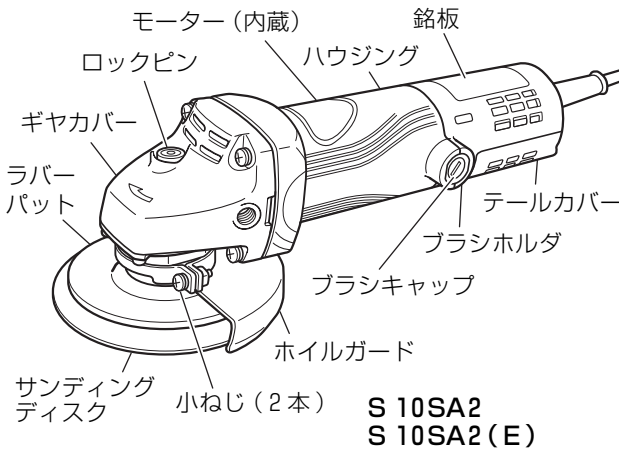
⑮



⚠ 注 意

- ① 工具類（サンディングディスクなど）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 試運転を励行してください。
試運転時間は、13ページの「7. 試運転を行なう」の項をご参照ください。
試運転せずに作業開始すると、思わぬけがの原因になります。
- ③ 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
また、コードを引っかけたりしないでください。
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。

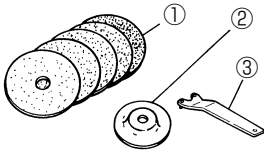
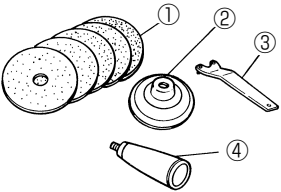
各部の名称



仕 様

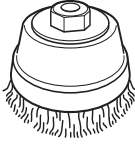

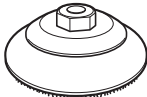
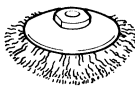
項 目	S 10SA2、S 10SA2(E)	S 13SA2、S 13SA2(E)
使 用 電 源	単相交流 50 / 60 Hz 共用 電圧 100 V	
モ ー タ ー	単相直巻整流子モーター	
全 負 荷 電 流	7.4 A	
消 費 電 力	720 W	
無 負 荷 回 転 数	12000 min ⁻¹ {12000 回 / 分}	9000 min ⁻¹ {9000 回 / 分}
質 量	1.6 kg (コードを除く)	1.8 kg (コードを除く)
コ ー ド	アースクリップ付 3 心キャブタイヤケーブル 2.5 m	

標準付属品

S 10SA2 S 10SA2(E)		<p>① サンディングディスク… 5 枚 (粒度 P 24、P 30、 P 50、P 80、各 1 枚 P 120)</p> <p>② ラバーパット …… 1 個 ③ スパナ …… 1 個</p>
S 13SA2 S 13SA2(E)		<p>① サンディングディスク… 5 枚 (粒度 P 24、P 30、 P 50、P 80、各 1 枚 P 120)</p> <p>② ラバーパット …… 1 個 ③ スパナ …… 1 個 ④ サイドハンドル …… 1 個</p>

別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合があります)

作業に適した別売部品をお選びください。(下図の6桁の数字はコードNo.を示します。) 取付け方法は16ページをご参照ください。

	S 10SA2、S 10SA2(E)	S 13SA2、S 13SA2(E)
1. ディスクサンダ用部品 ○ 研削量が少なく仕上げ面をきれいにしたいとき、塗装面の下地みがき、さび落とし、塗料落としなどに用います。	サンディングディスク S 10SA2、S 10SA2(E) – 100 mm S 13SA2、S 13SA2(E) – 125 mm ○ 粒度は P 16、P 20、P 24、P 30、P 36、P 40、P 50、P 60、P 80、P 100、P 120 の 11 種類です。	
2. カップワイヤブラシ ○ 鋳物、構造物、タンク、車体、鉄板、石材およびコンクリートなどの表面仕上げ、またはペンキをはがすのにサンディングディスクの代りに用いると有効です。とくに仕上げ面が平らな場合能率的です。	 75 mm、316332	 90 mm、879124
3. ベベルワイヤブラシ ○ カップワイヤブラシと同じ目的に使用されますが、特に凸凹が激しい面や、隅の部分または溝の底などを仕上げる場合に外周部を使用し、能率を上げることができます。	 95 mm、316414	 105 mm、879125

4. 電動工具用集じん機.....S 10SA2、S 10SA2(E)だけ

⚠ 警告

- 金属を研削する場合は、集じん機を使用しないでください。研削時の火花により、集じん機が焼損する原因になります。

S 10SA2、S 10SA2(E) は、電動工具用集じん機に接続して使用することができますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

用 途

用 途	使用する別売部品
塗装面の下地みがき、さび落とし、塗料落とし	サンディングディスク カップワイヤブラシ ペベルワイヤブラシ

作業前の準備

ご使用前に次の準備をすませてください。

1. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認

⚠ 警 告

- ・アース線をガス管に取付けると爆発の恐れがあるので、絶対にしないでください。

ご使用にさきだち、電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下、漏電しゃ断器と言います）が設置されていることを確認してください。

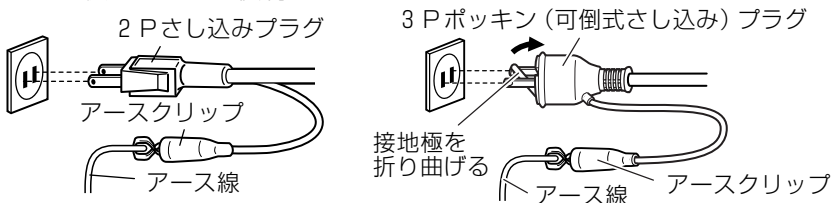
また、この機体は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流 15 mA 以下、動作時間 0.1 秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためにアースされるようおすすめします。

○アースクリップ付 2 P さし込みプラグをご使用の場合

アースをするときは、左下図のアースクリップをお使いになると便利です。

○アースクリップ付 3 P ポッキン（可倒式さし込み）プラグをご使用の場合

アースは、接地極のある電源コンセントに 3 P プラグ（接地極付プラグ）をさし込んで行ないます。接地極のない電源コンセントに接続するときは、右下図のように接地極を折り曲げて電源コンセントにさし込み、アースクリップをお使いになると便利です。



プラグのアースクリップや接地極、アース線は、異常のないことを確認してからご使用ください。テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら、プラグの接地極またはアースクリップと機体の金属外枠との間の導通を確認してください。

地中に接地極（アース板、アース棒）を埋め、アース線を接続するなどの接地工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。

2. 継ぎ (延長) コード



• 継ぎ (延長) コードは、損傷のないものを使用してください。

電源が離れているときは、電流を流すのに十分な太さの継ぎ (延長) コードをできるだけ短くして使用します。

下の表は、コードの太さ (導体公称断面積) によって、機体に使用できるコードの最大長さを示します。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

導体公称断面積	最大長さ
1. 25 mm ²	15 m
2 mm ²	25 m
3. 5 mm ²	45 m

必ずアース (接地) できる接地用の 1 心をもつ 3 心キャブタイヤケーブルをお使いください。

3. 作業環境の整備・確認

作業する場所が 2 ページの「電動工具の安全上のご注意」①、②、③、④項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に



警 告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～5項については、さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、サンディングディスクや機体が破損する恐れがあります。また、直流電源で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源コンセントにさし込むと不意に機体が起動し、思わぬ事故のもとになります。

スイッチはスイッチレバー（7ページの図参照）をON側に倒すと入り、OFF側に倒すと切れます。

スイッチレバーがOFF側になっていることを必ず確認してください。

3. ホイルガードの確認

ホイルガードはサンディングディスクが身体に触れるのを防ぐ保護壁ですから、必ず取付けてください。ホイルガードは、小ねじ（2本）（7ページの図参照）を少しゆるめることにより任意の角度に動かすことができます。作業に適した角度にセットしてご使用ください。調整後は、小ねじ（2本）を確実に締付けてください。

4. ロックピンの確認

ロックピン（7ページの図参照）を押して、離れたとき確実に戻ることを確認してください。

5. サンディングディスクを取付ける

サンディングディスクの取付けは15ページの「サンディングディスクの取付け・取りはずし」の項をご参照ください。

- サンディングディスクは各種の粒度がありますので、作業に適した粒度のものをお使いください。

6. 電源コンセントの点検

さし込みプラグをさし込んだとき、電源コンセントがガタガタだったり、さし込みプラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

7. 試運転を行なう



注 意

- 機体のスイッチを入れるときは、機体の回転部分が加工材などに接触していないことを確認してください。
接触していることを知らずにスイッチを入れると、サンディングディスクが破壊することがあり、けがの原因になります。
- 新しいサンディングディスクを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、回転部分から必ず一時身体を避けてください。

サンディングディスクにヒビ・割れがあるのを気づかずに作業しますと非常に危険です。けがの原因になります。

作業前には人のいない方向に回転部分を向け、必ず試運転を行なって異常がないことを確認してください。

試運転は、その日の作業始めのとき、およびサンディングディスク交換のときに1分間以上行なってください。

削り方

警告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 機体に衝撃をかけるとサンディングディスクにヒビが入ったり、割れたりする恐れがあるので、取扱いには十分注意してください。
万一機体を誤ってぶつけたり、落としたりしたときは、必ずサンディングディスクのヒビ割れや、機体に破損などが無いことを十分確認してください。
- サンディングディスクは被研削面に強く押し付けしないでください。破壊の恐れがあります。
- 突起物・角部にサンディングディスクの外周部を当てないでください。破壊の恐れがあります。

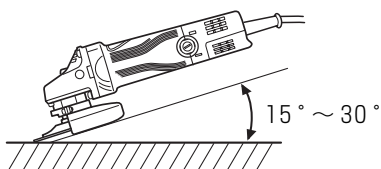
注 ・モーターが回転中には、ロックピンを押さないでください。またロックピンを押したままでスイッチを入れないでください。

1. 押し付け力

サンディングディスクは被研削面に強く押し付けしないでください。機体自身の重さで研削できますから被研削面に軽く当てる程度に保持してください。

強く押し付けるとサンディングディスクが破壊する恐れがあります。また、回転が落ち仕上げ面がきたなくなります。過負荷になってモーターを焼損する原因になります。

2. 押し付け角度



サンディングディスクの全面を被研削面に当てないで、左図のように機体を15°～30°傾けて、サンディングディスクの外周部分で研削してください。

3. スイッチの操作

スイッチはスイッチレバー（7ページの図参照）をON側に倒すと入り、OFF側に倒すと切れます。

4. 使用直後の注意

使用後はスイッチを切って、サンディングディスクの回転が止まってから機体を置いてください。回転が止まらぬうちに切粉やごみの多い場所に置きますと、切粉やごみを吸い込むことがあります。機体の寿命、事故の原因となりますのでご注意ください。

サンディングディスクの取付け・取りはずし

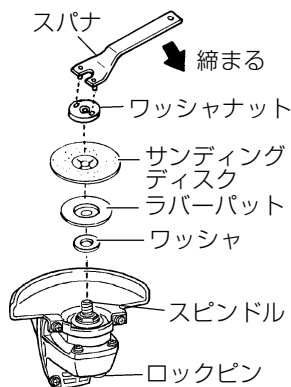
警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

注意

- ワッシャナットは、必ず付属のスパナを使って十分に締付けてください。

S 10SA2、S 10SA2(E)の場合



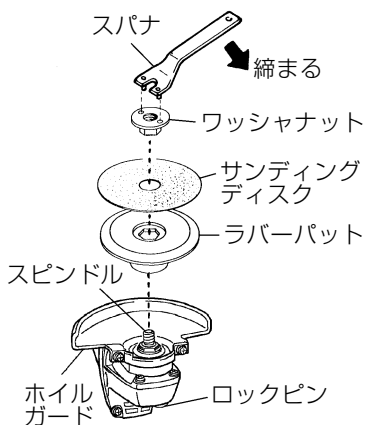
1. 取付け方

- (1) スピンドルにワッシャ、ラバーパッド、サンディングディスクの順に取付けます。
- (2) サンディングディスクの上からワッシャナットの凸部をサンディングディスク側にして、スピンドルに取付けます。
- (3) ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでワッシャナットを十分に締付けます。

2. 取りはずし方

- サンディングディスクを取りはずす場合は、上記の取付けと逆手順に行ないます。

S 13SA2、S 13SA2(E)の場合



1. 取付け方

- (1) スピンドルを上に向け、ラバーパッド、サンディングディスクの順に取付けます。
- (2) サンディングディスクの上からワッシャナットの凸部をサンディングディスク側にしてねじ込みます。
- (3) ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでワッシャナットを十分に締付けます。

2. 取りはずし方

- サンディングディスクを取りはずす場合は、上記の取付けと逆手順に行ないます。

注 • ロックピンを押して離れたときに、確実に戻ることを確認してください。

別売部品の取付け方

⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。
- 別売部品を使用の場合も必ずホイールガードを取付け、保護メガネを使用してください。
- 別売部品の項（9 ページ）に記載された外径を超えるものは使用しないでください。

1. カップワイヤブラシの取付け

2. ベベルワイヤブラシの取付け

} ... (直接スピンドルに取付けてください。付属のサンディングディスク取付け用のワッシャ、ワッシャナットは使用しません)

保守・点検

⚠ 警 告

- 点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

1. 各部取付けねじの点検

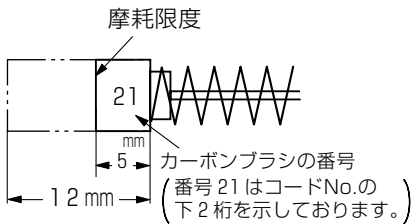
各部取付けねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら、締め直してください。

ゆるんだままお使いになりますと、けがなど事故の原因になります。

2. カーボンブラシの点検

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しています。

カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度（5 mm）ぐらいになりましたら新品と交換してください。



また、カーボンブラシはゴミなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

- 注** • 新品と交換の際は、必ず図示の番号（21）の日立カーボンブラシを使用してください

交換方法

カーボンブラシは、⊖ドライバーなどでブラシキャップ（7ページの図参照）をはずすと取り出せます。

3. モーター部の取扱いについて

モーター部の巻線は機体の重要な部分です。巻線にキズ、洗油および水をつけないよう十分注意してください。

- 注** • モーター内部にゴミやほこりがたまると、故障の原因になります。50時間ぐらい使用しましたら、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をテールカバーの風穴から吹き込んでください。ゴミやほこりの排出に効果があります。

4. 機体や付属品の保管

機体や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- | | | | |
|---|---|---|---------------------|
| { | <ul style="list-style-type: none">○お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所○軒先など雨がかったり、湿気のある場所○温度が急変する場所○直射日光の当たる場所○引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所 | } | このような場所
には保管しない。 |
|---|---|---|---------------------|

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないで買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼される時便利です。

お買い上げ日	年	月	日	販売店
製造番号(No.)				電話番号

■日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

●全国営業拠点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) ☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目(日生ビル) ☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 ☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) ☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号(コスモ栄ビル) ☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番 ☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号(スノークリスタル) ☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号(第一生命ビル) ☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981 ☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 ☎(092) 621-5772(代)

●電動工具ご相談窓口 — お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター 0120-20 8822 (無料)

※携帯電話からはご利用になれません。(土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)

電動工具ホームページ — <http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>

日立工機株式会社